

電気通信大学 2025 年春期 語学留学報告書

所属・学年：経営・社会情報学プログラム 4 年
留学先大学名：ウーロンゴン大学

氏名：宮本春那
留学先国名：オーストラリア

1 参加の動機

プログラムへの参加を決める前、私は海外旅行に行く計画を立てていました。以前からヨーロッパの周遊旅行をしてみたいという気持ちがあり、少なくとも 2 週間は滞在したいと考えていました。しかし、ヨーロッパの物価は高く、ホテルや移動費を考えると 2 週間でも観光を充実させようとする 50～60 万円ほどかかるとわかりました。その折に大学主催の語学留学を知り、オーストラリアのプログラムに参加すると 65 万で 5 週間海外に滞在できると知り、参加を検討するようになりました。個人的には人と接するのが好きなのでホームステイにも興味があり、ホテルよりも安くホームステイができて海外に長く滞在できるという利点ばかりのプログラムでした。それでも 60 万円を超える出費は安易に出せるものではなく、奨学金の有無などを相談してみると、実質 45 万円程度でプログラムに参加できるとわかり、プログラムへの参加を決めました。また、海外の大学院進学や海外就職に興味もあったので、まずは短期間海外で生活をしてみて、自分に合っているか見極めたいという思いもありました。

2 授業、アクティビティについて

授業は全て英語で行われますが、日本の授業のように「勉強をする」という雰囲気ではなく、会話やゲームを通して英語を身につけようという内容でした。休み時間にも、担任の先生がオーストラリアのお菓子を配ってくれたり、英語を使った注文の練習として学内のカフェに連れて行って奢ってくれたりとおーストラリアの生活を体験させてくれました。日本の春休みの期間でしたので、クラスメートが日本人だけだったのは残念だと思いましたが、プログラムに参加していなければ関わることもない他大学の人も仲良くなれることは良かったと思います。また、午後のスポーツやカンパシーションのアクティビティに参加して現地の友達と連絡を取ることで、お昼ご飯を一緒に食べたり休日に遊びに行ったりもできたので、積極的にコンタクトを取ることが本当に大事だと気づかされました。アクティビティで出会う人たちはフレンドリーで私の拙い英語でも頑張ってコミュニケーションを取ろうとしてくれる人たちなので、英語ができないことに臆せずコミュニケーションを取ることで交友の幅が広がりました。

3 自由時間での活動について

授業は基本午前中だけでしたので、午後はアクティビティに参加したり友達とショッピングをしたりすることが多かったです。1、2 日くらいは疲れて早めに帰宅した日もありましたが、基本的にはどこかに出かけていました。また、私は 5 週間のプログラムに参加したので、週末は 4 回ありました。1 週目はオペラハウスやハーバーブリッジなどシドニーの観光地をまわり、2 週目は現地でできたベトナム人の友達がブルーマウンテンという景色の綺麗な観光スポットに連れて行ってくれました。3 週目はオーストラリア大陸の中心付近に位置するウルル(エアーズロック)を観光し、4 週目はニュージーランドの南島にあるクライストチャーチに行きました。ウルルやニュージーランド観光は一人旅でしたので調べることや準備することも多く大変でしたが、一人でも海外でトラブルを解決できるという自信がつき、有意義な体験をすることができました。

4 ホームステイや生活一般について

ホームステイ先の方は女性どうしの夫婦の方でした。20 代後半と 30 代前半の若い方たちで、とても親切にしてくれました。夜ご飯はいつも手の込んだ手料理を振る舞ってくれて、犬の散歩にもよく誘ってくれました。食事中や食事後の映画鑑賞中も、私たちの英語の練習になるようにたくさんコミュニケーションをとってくれて、本当に恵まれていたと思います。休日に遊んでいて遅くなった日は駅まで迎えに来てくれたり、洗濯物も取り込んでおいてくれたりと、こちらが申し訳なるくらいによくしてもらいました。語学留学中、ホストファミリーの方とコミュニケーションをとりたいというのが英語学習の一番のモチベーション

でした。

5 今回の留学を通じて得たこと

正直、5週間という短い時間では英語力はあまり変わらず、長く関係が続くような友達を作ることも難しいと思います。実感としては、リスニング力が少し上がったかな、というのと拙い英語でも話すことが恥ずかしくなくなったという程度の英語力向上です。しかし、現地で英語を母国語とするたくさんの人と触れて、その方たちとコミュニケーションをとりたいたいという思いが強くなり、英語学習のモチベーションは非常に高まりました。また、このプログラムに参加して一番良かったと思うのが積極的に行動するようになったことだと思います。留学中は、「せっかく留学に来ていて今しかないチャンスだ」と常に思っており、あまり仲良くなっていない人でもお昼に誘ったり、一人で国外への旅行に行ったりと新しいことに挑戦するようにしていました。その行動で後悔したことは一つもなく、むしろ行動していなかったら後悔していたと思います。そして、日本に帰ってきてからはそれが癖になっていて、気になるイベントがあったら参加してみたり、初対面の人とでも自分からコンタクトを取ったりするようになったと思います。前から人と話すことは好きでしたが、新しい人と関わることに食欲になったと思います。「自分から行動することが大事」というのはよく言われますし、頭ではわかっているけど結局何をすれば良いかわからないことも多いと思います。私はこのプログラムのおかげで、その「とりあえず行動する」ということが自然と身についたと感じています。

6 今後の抱負

英語に関しての直近の目標としては、ホストファミリーの方が来年に日本を訪れるそうなので、その時までにもっと英語でコミュニケーションを取れるようにしたいです。日本の良いところを紹介して、日本で困るようなことがあればサポートできたらいいなと思います。オーストラリアで良くしてもらった恩返しをしたいです。また、海外の生活が本当に楽しかったので、将来海外で生活することも考えて行きたいです。私の所属するプログラムは修士1年のときに海外インターンに行くことが必修なので、まずはそのときにどこの国でどんな仕事をしたいのか決めたいと思います。

7 参加希望者へのアドバイス

現地での生活や語学力で留学を迷っているなら、絶対に参加した方がいいと言えます。現地に行ってしまうと意外となんとかなるし、楽しんで帰って来られると思います。私が参加を悩んだのは費用面の問題でしたが、奨学金が出て思っていたよりもお金をかけずにプログラムに参加できる可能性もあるので、ぜひ相談してみてください。加えて、私は5週間では短すぎると感じたので、可能であればできるだけ長期間のプログラムに参加することをおすすめします。

8 その他（任意）

留学では本当に良い思い出しかありません。オーストラリアは治安も良くフレンドリーな人が多かったので、カルチャーショックを受けることもなく毎日楽しく過ごしていました。そのなかで、オーストラリアと日本の違いを一番感じたのが人の目を気にせず生活できるということでした。「今しかできない」という自分の気持ちと現地の人々の風潮のどちらも影響していたのだとは思いますが、自分のやりたいことをやって、伸び伸びと生活することができました。

最後に、安西先生、様々な場面でサポートをしてくださってありがとうございました。



クラスメートと海辺で BBQ



現地の市場

ホストファミリーが連れて行ってく
れたカーレース





ウルルでのラクダライドと朝焼け



ニュージーランドのテカポ湖（左）
とマウントクック（右）